

# 今宮通信

## ～Dr'sコラム～

### 世界糖尿病デー in 巽今宮病院

院長 大塚章人

世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威を踏まえ、2006年に国連が認定しました。インスリンを発見したカナダのフレデリック・バンティング医師の誕生日である11月14日を世界糖尿病デーとし、世界中で糖尿病の予防や治療についての啓発活動を推進しています。

巽今宮病院においても、10月19日の秋祭りから12月7日の糖尿病セミナーまでの期間、病院玄関に世界糖尿病デーのシンボルマークである、糖尿病に対して団結することを意味するブルーサークルを掲げたり、玄関までの道路の両側のフェンスをブルーにライトアップしたりしました。巽今宮病院に来られている皆さんが、糖尿病について理解を深める契機になればという思いで実施しました。

糖尿病は、膵臓から分泌されるインスリンという血糖を下げるホルモンの作用が不足することで、慢性的に血糖値が上昇し、特有の臓器合併症が発生する病気です。高血糖が続くと脳、心臓、腎臓、目などに合併症を引き起こすため、脳梗塞、心筋梗塞により早死にしたり、失明したり、腎不全により透析が必要になったりします。合併症により死んでしまうと生き返れません。合併症は予防する必要があります。適切な血糖管理を行えば、高血糖による脱水症状や合併症による自覚症状がないため日常生活上の制限は何もなく、また、合併症で早く亡くなる可能性も低くなるので寿命の短縮もありません。しかも、高齢になった時に、糖尿病患者さんは若干肥満傾向（体格がよい）なので、体力が比較的残っており、介護なしで自立した生活ができる期間が長い、すなわち健康寿命が長くなることが期待できます。

糖尿病の治療・予防では、栄養バランスよく、食べ過ぎないこと（食事療法）、適度に体を動かすこと（運動療法）、薬を忘れずに飲むこと（薬物療法、予防では不要）が重要です。糖尿病は一病息災が期待できる病気です。糖尿病と上手に付き合しましょう。世界糖尿病デー in 巽今宮病院がそのきっかけになれば幸いです。



(写真:巽今宮病院 正面入口)

## ～糖尿病専門外来について～

当院の糖尿病外来では、専門医の診療に加え、糖尿病療養支援として、管理栄養士による食事指導、理学療法士による運動指導も行っています。薬物療法に関しては、血糖降下薬の説明だけでなく、必要な患者様へは外来でのインスリン導入もしています。また、当院では持続自己血糖測定器「フリースタイルリブレ」を導入。「フリースタイルリブレ」は、指先から採血することなく、上腕につけたセンサーの上に測定器をかざすだけで簡単に血糖の変動が分かります。保険診療(条件あり)で使用できます。

糖尿病治療は、各個人の病態や生活スタイル等で異なります。合併症予防のために、一緒に最適な治療法を考えてまいりますので、気軽に御相談ください。



## 北大阪急行 かやの中央駅からの直通バス

2024年4月1日から当院への直通便として追加されました。  
365日休まず運行しています。詳しくは病院HPよりご確認ください。



## ～糖尿病セミナーの様子～

2024年12月7日（土）に、当院1階で「第3回糖尿病セミナー」が開催されました。

今回のテーマは『糖尿病合併症とがん予防の一石二鳥を狙う』で、糖尿病とがんの関連や、糖尿病合併症とがん予防の実践についての講義がありました。

大塚院長からは糖尿病や肥満の場合に発症率が高まるがんの種類、その原因、また、それらの予防対策について幅広く話がありました。続いて当院の糖尿病サポートチーム（看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士）によるテーマ別の話がありました。

どのテーマの内容もすぐにでも日常生活に取り入れて実践できるものを中心に、糖尿病自己管理に役立つことが期待されます。



## ～今宮の庭～

巽今宮病院の敷地内には薬木園をテーマに薬効を持った植物をたくさんあります。今回は冬に実を付ける「ナンテン」についてご紹介いたします。



### ●ナンテン

メギ科ナンテン属

1属1種の植物で、古くから咳止め薬として利用されています。『難を転ずる』という語呂合わせで縁起の良い木とされており、お祝い事の席に出される赤飯の上にナンテンの葉が添えられていた風習があります。

生薬名は、果実を南天実（ナンテンジツ）、葉を南天竹葉（ナンテンチクヨウ）といいます。果実には健胃作用や鎮咳作用があり、喘息や気管支炎などに用いられています。のど飴は有名ですね。医療用のトラニラストは、南天の抗アレルギー作用の研究から開発されました。現在も抗アレルギー薬、ケロイドの治療薬として使われています。

## ～巽今宮病院 部署紹介～

### ●看護部紹介

当院の看護部体制は、外来・一般障がい者病棟・回復期リハビリテーション病棟・療養型病棟の4単位です。外来では、内科と総合診療科がかりつけ医として地域の方々の診療を行っており、糖尿病専門外来と看護師によるフットケア外来を新設し糖尿病患者様の診療とケアを実施し、定期的に糖尿病教室も開催しております。一般障がい者病棟・療養型病棟では、呼吸器管理が必要な患者様や在宅介護や施設入所が困難な医療依存度の高い方が入院されており、レスパイト希望の方にもご利用いただいております。安全安楽に生活できる療養環境を整え、お過ごしいただけるよう看護ケアに努めております。また、回復期リハビリテーション病棟では、急性期から在宅退院までの期間のリハビリを集中的に実施し、入院環境を整え離床を促し、病棟内でもできることはご自身で実施していただき、早い在宅復帰を目指しADL自立に向け看護・介護介入しております。退院後の生活に困らないように、ご本人含めご家族様と一緒に退院後の生活をご本人を中心に考え、自立した生活が出来るようになるよう患者・ご家族様に寄り添い笑顔と思いやりのある看護・介護を実践してまいります。



（写真：看護部 管理者一同）



アクセス



ホームページ



FaceBook



Instagram



LINE公式